

## 2013年度受託研究概要報告

# 子どものまちづくり活動に関するドキュメンテーション手法に関する研究

## 研究メンバー

曾和具之	デザイン学部プロダクトデザイン学科准教授
福岡千晃	デザイン学部プロダクトデザイン学科実習助手

## 委託者

株式会社オーバーイージー

## 研究概要

近年、人材育成の場に於いて、さまざまなドキュメンテーション手法を使った新たな記録が模索されている。本研究は、子どものまちづくり活動を中心とした新たな学習環境の可能性を探るとともに、育成プロセスのドキュメンテーションを作成・分析することを目的とした。具体的には、東日本大震災にて被災した地域の中から、宮城県石巻市、岩手県山田町、岩手県陸前高田市における子どもたちのまちづくり活動をドキュメンテーションするとともに、東北地方出身の高校生・大学生を対象としたリーダーシップ・ワークショップのドキュメンテーションを行い、彼等の体験を共有できる環境を構築した。

## 研究成果

主な成果は、①3地域の日々の活動をドキュメンテーションし、SNS等で発信した。②3地域が集うリーダーツアーなどを記録し、活動内容の振り返りと体験共有のための映像環境を整備した、③子どもたちの国際活動をアピールするためのドキュメンテーションを作成し、テロップなどを加えることで、国内外への活動の周知を促した。

以下は、具体的な活動内容である。

### ■世界防災会議 in 東北

「世界防災閣僚会議in東北」サイドイベントや国連事務総長特別代表との対談に向けた子どもまちづくりクラブメンバーの準備の様子や提言内容についてご報告。今回はその続編として、当日の様子を動画、メンバーや参加者の声とともに、公開した。メンバーは、2011年10月から復興計画を読み、各地域の首長や復興大臣に、復

興計画に対する自分たちの考えを意見書として提出してきた。意見書作成といっても、最初は想いを言葉にすることが難しく、何時間も頭を抱えることもあった。それでも、「伝えたい」という想いで意見書を作成し、提言後は「想いを伝えられた」「地域に貢献できた」と、ある意味達成感を感じていた。そして何回も意見を発表していくうちに、意見がどんどん明確化され、今回の提言書づくりでは、自分たちの意見がどうすれば伝わるか、細部にわたってこだわりを見せていた。

### ■子どもまちづくりリーダーツアー

岩手県山田町、陸前高田市、宮城県石巻市の3地域の子どもたち計58名が参加した。「普段の活動では、なかなかゆっくり他の地域の子もたちと話すことがない」「もっと3地域で交流したい」というメンバーの声を受けて練られた今回のツアープログラム。3地域でこれまで活動してきたメンバー37名と、今回のツアーから新たに地域の復興やまちづくりについて考えたいと意欲を燃やす新メンバー21名、計58名が「自分でもびっくりするくらい集中した」3日間を過ごした。